

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 神奈川県立相模原中等教育学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年10月3日 (火)
- 場 所 : 神奈川県立相模原中等教育学校
- ク ラ ス : 2年A組 (32名)、B組 (32名)
- オリンピアン : 松本 弥生 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、今日の授業を通して「オリンピックとは何か」を知ってもらいたいと授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューについて、エクセレンス：何事もベストを尽くす、フレンドシップ：仲間と協力する、リスペクト：褒め合う、ルールを守ると説明し、バリューを意識しながら取り組むよう伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間で連続して跳べた回数を競い、失敗したら0から数え直す。全2回実施し、各回終了後作戦タイムを設け、1位になる作戦を考える。

4. まとめ



- ・一生懸命授業に取り組んでいたことはエクセレンス、勝ったチームに拍手を送って勝利を称えたことはフレンドシップ、お互いを尊重しながら取り組めたことはリスペクトに当たると話し、次の座学の時間はさらにオリンピックバリューについて学ぼうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・簡単な自己紹介の後、試合映像を見せながら競技について紹介。自身の経験を交えながら3つのオリンピックバリューについてエクセレンスは目標に向かってベストを尽くすこと、フレンドシップは仲間、チームワーク、リスペクトは感謝の気持ちと説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問:日常生活をより良くするためにオリンピックバリューをどう活かせるか考える。
 ・発表:全力で頑張る、一人一人がクラスの中で役割を果たす（エクセレンス）、クラスのチームワーク、友情、困っているときに助け合う（フレンドシップ）、相手を気遣う、感謝の言葉を言う（エクセレンス）等の意見が挙げられた。



4. まとめ



・3つのオリンピックバリューをこれからの学校生活の中でも忘れずに過ごし、より良い学校生活にしてほしいと伝える。
 ・東京2020大会では少しでもオリンピックに関わってほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年10月3日 (火)
- 場 所 : 神奈川県立相模原中等教育学校
- ク ラ ス : 2年C組 (32名)
- オリンピアン : 海淵 萌 先生 (カヌー・スラローム)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・実際にカヌーを見せながら競技について簡単に紹介し、今日はオリンピックについて知ってもらいたいと話し、オリンピックバリューについてエクセレンスは全力を尽くす、フレンドシップは協力し合う、リスペクトはフェアプレー、ルールを守ること説明。運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしいと伝え、準備体操へ移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・3チームに分かれて大縄跳びを実施。全員跳びか8の字跳びから選択し、90秒間で連続して跳んだ回数を競う。各回終了後、各チームから回数を発表した後、練習タイムを設け、全2回実施。

4. まとめ



・運動の時間では皆がオリンピックバリューを実行したことで、作戦を立ててよい記録を出すことができたことが本当に素晴らしかったと伝え、運動の時間で取り組んだことを頭に残しながら座学を受けてほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・ロンドン大会最終予選の映像を見せながら競技について説明。競技を始めたきっかけやオリンピック出場に至るまでの自身の経験を交えながら3つのオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



・発問:運動の時間で頑張ったこと、工夫したことをオリンピックバリューに当てはめて考えよう。
 ・発表:全力で縄を跳んだ、高い目標に向けて全力で取り組んだ（エクセレンス）、声を掛け合った、班の仲間を気遣った（フレンドシップ）、他の班の素晴らしさを称えた（エクセレンス）という意見が挙げられた。

4. まとめ



・運動の時間で協力して作戦を出し合い、全力で取り組んでいた皆の姿勢が本当に素晴らしかったと改めて伝え、自分の夢や目標に向かって自分を信じてこれからも頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。

- 期 日 : 平成29年10月4日 (水)
- 場 所 : 神奈川県立相模原中等教育学校
- ク ラ ス : 2年D組 (32名)、2年E組 (32名)
- オリンピック : 荻原 次晴 先生 (スキー・ルディック複合)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・簡単な自己紹介の後、今日はオリンピックについて考えていく、と授業の目的を確認。東京2020大会について、千葉県で行われる競技を知っているか質問した後、自身が出場した長野大会の写真を見せ、競技について簡単に説明。荻原先生から、運動の時間は皆にもジャンパーになってもらおうと伝え、準備体操に移る。

3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを実施。荻原先生からライバルチームであっても大きな声で応援し、跳んだ回数を数えるように伝える。
 ・90秒間で跳べた合計回数を競い、1チームごとに全2回実施。各回終了後に集合して回数を発表した後、回数を増やすために作戦タイムを設ける。

4. まとめ



・パネルを用いて簡単にオリンピックバレーについて紹介し、次の座学の時間ではさらに詳しく話すと伝え、一生懸命取り組んだ自分とチームの仲間の健闘を称えあい、お互い握手をして授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・自身がオリンピックに出場した映像を見せながら改めて競技紹介。双子の兄・健司氏とのエピソードやオリンピックを目指すようになったきっかけを紹介し、オリンピックが世界に伝えた大事な考え方としてオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：日常生活の中で感じることをオリンピックバリューに当てはめて個人で考えた後、グループで発表。
 ・発表：テストや体育祭、部活で結果を出せた時、目標を達成できた時、自分の成長を感じた時（エクセレンス）、切磋琢磨する。高め合うこと（フレンドシップ）、親や先輩、学校の先生、身近な人に感謝する（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューは特別なものではなく、普通の生活の中にあることを伝え、オリンピックは順位を競うだけでなく、スポーツを通じた世界平和を願っている大会だと説明。バリューを実践することでクラスもよりよくなるので、バリューが身近にあるものだと思わせたいと伝え、授業終了。

■ 集 合 写 真

2年A組



2年B組





■ 集 合 写 真

2年C組



2年D組





■ 集 合 写 真

2年E組



■ 記 念 品 贈 呈

2年A組



2年B組



2年C組



2年D組



2年E組



■ 証 明 書 贈 呈

